

永代橋

〔一〕新大橋古板之所、飛々朽損百五拾ヶ、所蓋板切込致繕可然旨、戊八月十八日御内寄合ニ而申上、御入用爲積、金六兩貳步、銀拾貳匁三分掛リ候段申上候所、窺之通可申付旨被仰渡、同日道役江申付候事

〔武江年表八〕文政六年五月十九日より近在出水、大川筋大水、○註兩國橋危く、新大橋は半くぼみたり、

〔武江年表十一〕文久二年十二月廿四日、新大橋御修覆始る、

〔江戸砂子〕永代橋 長凡百十間餘 幅三間一尺五寸

元祿九年はじめてかゝる、其以前は深川の大わたしと云て船わたし也、此橋すぐれて高し、富士筑波をはじめ、伊豆箱根、安房、上總限なく眺望斜ならず、江府第一の大橋也、此所大湊にて鐵炮洲までの間、數百の廻船かゝる、此所にて川幅凡百二十間餘あり、

〔遊囊賸記三〕永代橋ハ、永代島へ掛レルガ故ノ名ナリ、○中元祿九年、將軍家○德川五十ノ御賀ニ

掛シメ玉フトイフ、其後享保四年大破ニ付、取捨ラルベキヲ、同六年三月、願ニ依テ深川町人共へ

賜ハリ、爾來永ク斷絶ナシ、

〔三王外記 憲王〕元祿中、王詔於兩國橋下流、更造二橋、一曰新大橋、在兩國橋南里餘、二曰永代橋、在新

大橋南里餘、港口橋之東南、曰永代洲、故名也、舊以舟渡行人、二橋成而民甚便之、

〔事蹟合考四〕新大橋永代橋之事

元祿十一年中、永代橋かけらる、この時老中阿部豊後守正武、河村瑞軒に申さる、は、ありがたき御仁政にてはなきか、萬民通路のため公儀御失却夥敷をも御厭ひなく、大橋二箇所までかけられ候、何と大水の時分などいたみはあるまじきやと被申時、瑞軒答へ候は、されば大水の時は川上田地四萬石ばかりは極めていたみ申べしと答へしが、果して寶永元年利根川筋洪水のみぎ